

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成30年9月)

～関空の閉鎖を含む台風などの影響で、現状判断は低下～

- 景気ウォッチャー調査・9月調査の近畿地域の結果は、現状判断[方向性]が2か月の低下、先行き判断は2か月連続の上昇となった。(なお平成28年10月調査より、内閣府方針に基づき各指数を原数値から季節調整値に変更)
- 足元の景気については、9月上旬に上陸した台風21号の影響を大きく受けている。特に、関西国際空港が冠水、連絡橋も大きな被害を受けたことで、空港は一時閉鎖となり、その後も運航の制限を余儀なくされた。そのほか、自社設備に被害を受けた企業なども少なくなかったため、様々な影響につながっている。
- ただし、その後関空の復旧が早期に進み、9月下旬には旅客便が全面再開となるなど、悪影響の緩和が進んだこともあり、DIの落ち込みは比較的小さなものにとどまっている。
- 先行きについては、関空の復旧に伴ってインバウンドの動きも戻るとの声も多く、百貨店などを中心に期待が高まっている。一方、今冬は暖冬になるとの予報もあり、冬物商材の売行きへの期待はやや低めとなっている。
- さらに、今後は米中間の輸入関税問題などの影響を警戒する声も少なくない。株価の下落や消費マインドへの影響を経て、消費にも波及するといった声も聞かれ、幅広い業種での懸念材料となっている。

「台風、関空」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	良くなっている	家電量販店(店員)	・大型台風の影響もあり、電池や懐中電灯、ランタンなどが通常時よりもよく売れている。
	やや良くなっている	一般小売店[時計](経営者)	・少し気温が落ち着いたせいも、年配客の数が少し増加した。それに伴い売上も徐々に少し良くなった。月初めの台風による被害があったため、その話をするために来店する客が多かった。個人店舗の良さが今月は出たように感じる。
		コンビニ(経営者)	・台風や大雨などの天災があったものの、近隣の飲食店がほぼ休業していた影響もあり、フードやドリンク類のまとめ買いが多く、販売量の増加や客単価の上昇傾向がみられる。
		コンビニ(店員)	・関西国際空港が使えず、外国人の来店が減ったため、売上にかなり響いている。
		乗用車販売店(営業担当)	・台風の影響で、修理の台数が増えている。
		その他専門店[医薬品](経営者)	・台風の影響による海外からの観光客の落ち込みがひどい。駅前や商店街の店舗はインバウンド向け商品の動きが悪く、通常の半分以下である。
		一般レストラン(経理担当)	・大阪北部地震や猛暑、台風といった異常な天災続きで、国内客やインバウンドの急激な減少により、消費に陰りがみられたが、復旧とともに少しにぎわいが出始めている。
	変わらない	商店街(代表者)	・購入単価が上がらず、台風や天候不順の影響がみられる。
		一般小売店[衣服](経営者)	・今月は前半の台風被害の割には、商店街やモール、ターミナルの店舗共に、前年を上回る売上となっている。月末の数日間も落ち込みはなく、無事に着地できそうである。
		一般小売店[家具](経営者)	・台風や北海道胆振東部地震により、客の来店頻度や購入頻度が少なくなっている。
		一般小売店[野菜](店長)	・全体的に台風や長雨の影響で物価が上がり、買い控えが起きている。
		百貨店(売場主任)	・今月は台風の影響による臨時休業や、関西国際空港の閉鎖による外国人の来店客数の激減といった影響はあったが、前年比で5%の減少にとどまっているので、決して下向きとは判断できない。
		百貨店(売場主任)	・今月は目標を上回る見込みである。ただし、台風の影響で営業日が1日減った上に、インバウンド需要が減少したこともあり、他の月との比較では厳しい結果となっている。売上の不振を一部の商材がカバーしている状態であるほか、国内客の購買意欲は決して高くない状況が続いている。

家計動向関連

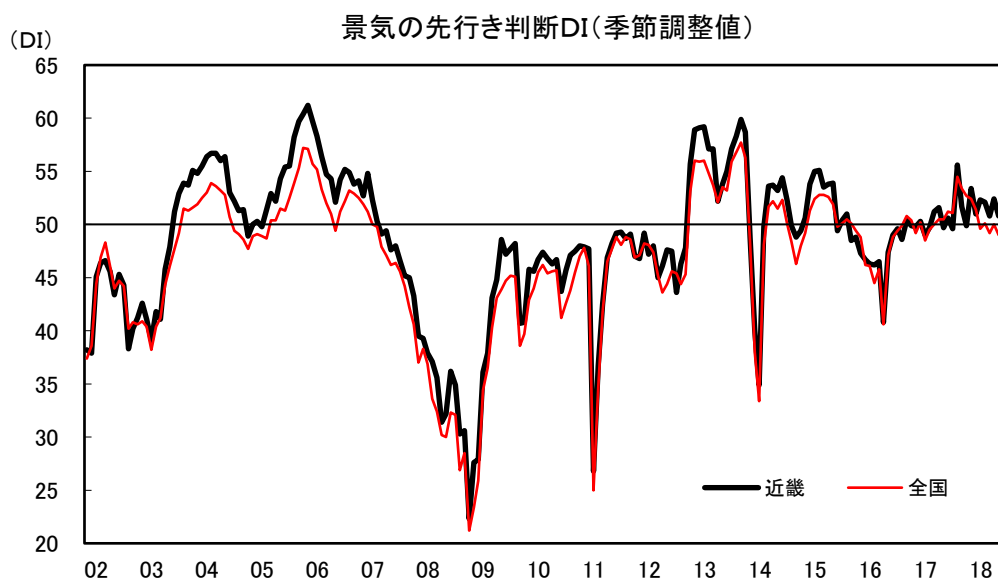
変わらない	百貨店（営業担当）	・月初の台風の影響で、一時的に消費動向が悪化したものの、インバウンドの動きは以前と同じレベルまで戻ってきた。また、富裕層を中心とした高級ブランドなどの高額品の動きも、引き続き良い。
	百貨店（営業担当）	・4日の台風での休業や、その後のインバウンドの落ち込みはあったが、富裕層の固定客による、秋冬物の高級ブランド衣料品などの購入が例年以上に増え、購入点数も増えている。
	百貨店（サービス担当）	・今月は台風の影響で臨時休業があったり、関西国際空港を利用した来客が減ったこともあったが、持ち直し傾向自体は変わらない。売上目標や、前年の売上もクリアする予定となっている。
	百貨店（商品担当）	・台風21号の直撃による臨時休業の影響で、月初は大きく落ち込んだが、関西国際空港の復旧とともに都市部の店舗ではインバウンドが盛り返した。また、物産催事などのイベントによる集客効果もあって、入店客数が回復し、期初目標まで追いついている。天候や気温の不順により、不調であったファッション関連も、後半になって動きが出てきている。
	百貨店（営業企画）	・台風による臨時休業や北海道胆振東部地震による消費マインドの低下など、自然災害の影響が大きい。ただし、基調に変化はなく、一過性の現象だと判断している。
	百貨店（外商担当）	・9月4日の台風21号による被害が大きく、消費マインドが冷え込み、高額品を中心に売上が落ち込んだ。関西国際空港の連絡橋の事故によって訪日外国人が減少し、インバウンド売上も低迷している。
	スーパー（経営者）	・9月は台風や週末の雨により、来客数が減ることになった。ただし、台風前のまとめ買い需要や農水産物の相場高のほか、北海道胆振東部地震による道産品の値上がりで、競合店を含めて特売回数が減り、売上は改善している。たばこも10月からの値上げを控え、特需が発生している。つまり、今月の好調は特殊要因の積み重ねである。
	スーパー（企画担当）	・8月は記録的な猛暑で、夏物商材を中心に恩恵もみられたが、今月は北海道胆振東部地震や台風などの影響で商品調達が一時的にストップしたり、停電によって営業ができなくなる店舗も発生するなど、売上減となる要因もあった。中旬以降は連休が続き、何とか天災による影響の回復を狙ったが、カバーするまでには至っていない。
	スーパー（経理担当）	・台風21号による関西国際空港の機能低下と、北海道胆振東部地震の影響で、一部の商品で品薄の状況が続いている。食品スーパーでは、インバウンドの減少による影響は少なかったが、天候要因が売上を押し下げている。
	コンビニ（店長）	・今月は台風や北海道胆振東部地震により、商品がそろわないなどの影響も出たが、来客数や販売量が伸びたため、結果として売上は良かった。たばこの値上げに備えたまとめ買いも、売上を後押ししている。
	コンビニ（広告担当）	・今年の7～8月は猛暑の影響で、来客数が思ったよりも伸びなかった。また、9月には台風21号による大きな影響が出るなど、天候要因の影響を受けたが、トレンド全体としては3か月前と大きく変わらない。
	その他専門店〔ドラッグストア〕（店員）	・9月は天候に恵まれず、台風の影響などで営業時間が短くなり、来客数も減少したため、売上は前年よりも100万円減少している。
	観光型ホテル（経営者）	・猛暑後の災害で、特に関西国際空港の運航が止まったことにより、かなりの影響が出ている。
	やや悪くなっている	都市型ホテル（スタッフ）
旅行代理店（営業担当）		・台風21号や北海道胆振東部地震の影響によるキャンセルが相次ぎ、販売が落ち込んでいる。
タクシー運転手		・台風や関西国際空港の減便の影響で、一時的に悪かったが、早急に復旧し、地元では各イベントも行われているため、客足は大きく変わらない。
タクシー運転手		・大阪北部地震や台風で、景気が少し鈍っている。
その他レジャー施設〔イベントホール〕（職員）		・通常であればやや良くなっていると判断できるが、大阪北部地震や台風などの災害続きで、原状の回復には至っておらず、消費も低調である。
一般小売店〔菓子〕（経営企画担当）		・今年9月現在と今年6月の売上前年比を、各地区別に上位5店舗の平均でみると、関西は9月が103.9%で、6月が93.2%、関東は9月が107.3%で、6月が95.9%、中部は9月が101.5%で、6月が107.1%、中国は9月が100.9%で、6月が69.6%となり、各地区合計の平均は9月が103.8%で、6月が91.6%となった。9月の初旬は台風の影響もあったが、新商品が比較的好調で数字は伸びている。ただし、好調の要因は、あくまでも新商品の発売によるものである。
百貨店（売場主任）		・今月は9月4日の台風21号の上陸によって休業した影響が大きく、23日現在で、店頭売上は前年比5.7%減と苦戦している。入店客数も同じく5.7%減となった。また、台風で被害を受けた家屋も周辺に多数あり、その後も、休日の売上は台風以前の水準にまで回復していない。
百貨店（服飾品担当）		・9月に入り、初旬の台風の影響で店が開けられない状況となり、大きく売上がダウンしている。また、関西国際空港の閉鎖によってインバウンド客の来阪が減り、関西の小売店はダメージを受けた。そのなかで、中旬以降は気温の低下が順調に進み、衣料品関連やショートブーツなどの売上が徐々に増えるなど、秋の商戦に明るい兆しはみられたが、初旬のダメージを取り戻すまでは至っていない。一方、化粧品はインバウンドの占める比率が高かったことが響き、成長がストップする形となった。都心型店舗では前年比で99%となっている。ただし、ラグジュアリー関連はこの状況下でも2けた成長を維持し、後半に期待がもてる状況である。
百貨店（売場マネージャー）		・台風などの災害が多発している影響で、客の消費マインドが落ちている。また、生活防衛的な節約志向が強まっている。

家計動向関連

やや悪くなっている	百貨店（販促担当）	・今月も初旬に大型台風の影響があり、前年を下回る推移となっている。大阪北部地震や大雨などの厳しい気象条件により、当日の直接的な影響にとどまらず、消費機運が守りに入っていることが影響している。その影響は衣食住全般に広がっている。また、インバウンドは大阪地区に比べると規模は小さいながらも、マイナス要素となっている。
	百貨店（マネージャー）	・直近の店頭売上は前年比で6.5%減、月初の大型台風による営業中止の影響を除いても3.9%減と、非常に苦戦している。関西国際空港の減便による影響で、訪日外国人売上も前年を若干下回る推移となっている。それも含め、これまで継続的に伸びてきた、化粧品や特選衣料品なども微増にとどまっている。中間層向けの婦人服は引き続き低調な上、食料品やリビング関連も苦戦しており、全体として買上げ客数は前年を5%強下回っている。
	百貨店（マネージャー）	・台風によって関西国際空港が閉鎖された影響もあり、関西への外国人の来訪が減っている。インバウンド売上は前年よりも増加しているものの、8月の前年比44.2%増から、17.9%増に落ちている。
	スーパー（店員）	・台風の影響で野菜の価格が高止まりしている。
	コンビニ（経営者）	・インバウンドの客が関西国際空港の運航制限でかなり減っているため、売上が前年比で9%ほど減少している。
	衣料品専門店（店長）	・台風や雨の日が多く、来客数が激減している。
	家電量販店（企画担当）	・台風21号の影響による大規模な停電と、関西国際空港の冠水や連絡橋事故による通行止めで、インバウンド需要が激減した。既に復旧しつつあるとはいえ、関西経済に多大な影響が出ている。
	その他小売〔インターネット通販〕（経営者）	・自然災害や台風に対しては、これまで関西では関心が低かったが、前回の台風で意識が変わり、今回の台風でも客は余り外に出ないようになっている。
	その他小売〔インターネット通販〕（企画担当）	・台風や大雨、北海道胆振東部地震などによる、野菜価格の高騰、品不足が生活を直撃している。メイン客のシニア層にも、節約の動きなどが従来以上に顕著となっている。
	観光型旅館（経営者）	・平成30年7月豪雨や台風の影響で休館したほか、近隣では建物被害が多く、団体客や小さなグループの旅行に自粛ムードがある。
	観光型旅館（団体役員）	・台風21号の影響が大きく、特に関西国際空港の機能低下によるインバウンドのキャンセルも多い。
	都市型ホテル（総務担当）	・9月4日に関西に上陸した台風21号により、関西国際空港が被害を受けたため、大阪市内の各ホテルは軒並み外国人客が減少した。当社も直近の予約だけでなく、2～3か月先の予約キャンセルが多く発生している。
	都市型ホテル（管理担当）	・台風21号、特に関西国際空港の運航制限が、宿泊客の減少に大きく影響している。
	悪くなっている	美容室（店員）
その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）		・今年の夏は関西圏に、大阪北部地震や平成30年7月豪雨、台風の被害が出ており、実際に被災した客もいる。家計の予算がそちらに取られ、エレベーターの保守関係は後回しになっている。
一般小売店〔珈琲〕（経営者）		・大阪北部地震や台風21号の被害により、飲食店の営業日が減少している。
一般小売店〔精肉〕（管理担当）		・自然災害とはいえ、これだけ続くと、影響も様々な部分に及んでくる。台風の直撃で営業できなかったことや、それによる交通障害のほか、外国人観光客にも影響が出ている。また、これからは肉や野菜、米の流通にも影響が出てくるのが予想される。さらに、天候の面でも雨が多く、客足に影響している。
一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）		・台風による関西国際空港の連絡橋事故でインバウンドが減り、約10%の売上ダウンにつながっている。
百貨店（企画担当）		・今月は、超大型の台風が2回も上陸し、当店も2日間の臨時休業を余儀なくされた。特に影響が大きかったのは、関西国際空港の被災による就航便数の減少で、外国人客が
百貨店（宣伝担当）		・今月は台風による臨時休業と、関西国際空港への被害による訪日外国人客の激減に見舞われた。また、大阪南部での被害が大きかったことにより、国内客も減少しており、店頭売上は前年比で10%強の減少と、大きな影響が出ている。
一般レストラン（経営者）		・9月は2回の台風直撃や天候が悪過ぎたことで、商店街の人通りは少なく、夜の来客数も少ない。
一般レストラン（経営者）		・度重なる天候要因による影響などで、営業時間の変更や休業を余儀なくされ、売上や利益へのダメージが大きい。関西国際空港での減便により、インバウンドの来客数も激減している。
都市型ホテル（管理担当）		・6月の大阪北部地震に始まり、台風、集中豪雨等によって、売上や仕入れに影響が出ていたが、9月の台風による関西国際空港の閉鎖が、好調であったインバウンドにも決定的なダメージを与えた。また、低調であった国内客の個人旅行も、更に悪化している。
都市型ホテル（客室担当）		・台風21号による関西国際空港の閉鎖が影響し、訪日外国人の宿泊が前年比で11%減と落ち込んでいる。
旅行代理店（支店長）		・大阪北部地震の影響が少し落ち着き始めたところに、台風21号の上陸で、関西国際空港を始めとする公共交通機関の運休が発生し、客の動きに水をかけた。特に、個人客のキャンセルは戻ってこない。これだけ自然災害が続いているなかで、客の意識は旅行には向かわない。
旅行代理店（役員）		・直接消費マインドとは関係ないが、台風21号の影響で関西国際空港の機能が麻痺し、今シーズンの動きに大きな影響が出た。また、消費者も台風に関する危機感を今まで
競輪場（職員）		・今月の客単価は8,834円で、3か月前の客単価は10,447円であった。例年、この時期は祭りのシーズンとなり、客足も遠のく。また、物価の上昇による影響に加えて、9月は台風21号の接近による被害も出ている。

企業動向関連	良くなっている	その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・関西に台風が上陸した影響で被害が大きくなり、修理などの注文が上向きになっている。
	なやや良くなっている	経営コンサルタント	・平成30年7月豪雨や、先日の台風などの災害による特需が発生している。建築工事の価格は、人手や資材の不足により高騰する一方である。工事を発注する側には痛手であるが、受注する側にとっても、その調達コストが上がるため、一体誰が得をしているのか分からない状態になっている。
	変わらない	食料品製造業（従業員）	・台風21号の影響で臨時休業日があった。当社に大きな被害はなかったが、港湾エリアの原料メーカーや物流会社が被害を受け、混乱を招いた影響もあり、生産量は少なかった。ただし、在庫もあったため、売上は横ばいで推移している。
		繊維工業（団体職員）	・今月は台風21号の影響により生産休止を余儀なくされたため、その分だけ前年比で数%のマイナスである。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・台風の影響で、客の生産計画に変更はあったが、大きな変化はない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・景気自体に変化はないものの、業績の実態は悪い。9月は3連休が多かったほか、9月4日の台風21号による停電のため、3日間は工場の機能がストップしたため、9月の操業率は著しく低下している。
		建設業（経営者）	・台風や大雨で、かなりの取引先が被災している。被災状況は様々であるが、業績に影響のある会社もみられる。
		金融業（営業担当）	・台風や大阪北部地震の影響が大きい。建設業は、今後も被災地の支援を中心に忙しくなる。
		広告代理店（企画担当）	・台風や大阪北部地震の影響が一段落して、消費が戻ってきた感がある。取引先である商業施設の売上も回復している。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・商品の動きは横ばいであるが、台風や北海道胆振東部地震によって災害対策の商材が特に売れた。通常の商品は変わらない。
その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	・主力納品先の衣料品専門チェーンの店頭売上が、非常に悪い状態が続いている。原因は天災や台風の上陸などによる来客数の減少が指摘されているが、ネット販売との競合など、構造的な問題も続いている。百貨店統計やチェーンストア統計などをみても、衣料品関連の売上は減少を続けており、全体的に良くない状況が続いている。		
なやや悪くなっている	広告代理店（営業担当）	・上期決算の時期であるが、例年ほどの広告出稿がみられない。特にテレビCMの動きが少ない。また、台風の影響で、インバウンド関連の広告を控える動きがみられる。	
	その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・9月4日に上陸した台風21号以降の、関西国際空港の閉鎖による影響は大きい。外国人旅行者でにぎわう関西の主要駅も、大型の土産店を中心に客足が減って売上を落とした。中旬以降は回復傾向となったが、前半の影響を取り戻すことはできていない。	
雇用関連	やや良くなっている	民間職業紹介機関（営業担当）	・損害保険会社による台風関連の対応要員の需要で、短期的にはあるが、全国で求人数が増加している。
		学校〔大学〕（就職担当）	・台風21号の影響で関西国際空港が長期にわたって閉鎖されたため、インバウンド客はやや少なめであった。ただし、今月は3連休が2回あったため、行楽地にはにぎわっている。消費が上向いたかどうかは不明であるが、全体の雰囲気は良かったので、今後に期待したい。
	変わらない	人材派遣会社（営業担当）	・状況は大きく変わっていないが、今年に入り、台風や大雨で稼働日数が減っているため、売上が落ちている。
		人材派遣会社（役員）	・9月4日に上陸した台風21号は、関西全体に甚大な被害をもたらした。損害保険各社からは、事故対応のための電話対応やデータ入力、事務作業などの臨時派遣スタッフの募集が大量に出ている。各損害保険会社からは100名単位の募集が出ているほか、派遣時給も通常の水準を200円/時間程度上回る水準であり、地区全体の派遣時給の引上げにつながっている。ただし、期間は2～3か月程度であり、景気全体に与える影響は軽微と考えている。
		職業安定所（職員）	・今月の当安定所における新規求職者数及び新規求人数は、前年比で大幅に減少している。新規求職者数は前月の増加から減少に転じたほか、新規求人数は5か月連続で減少している。一方、新規求人倍率は2倍を超えており、依然として高止まりで推移している。相談窓口での特徴は、台風などの影響で相談件数が減少したほか、職業相談を行っても紹介に至らないケースが多い。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		16年			17年						18年															
		9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
現状判断	近畿	45.5	47.1	51.7	53.6	50.3	49.7	48.7	48.4	50.4	51.7	52.2	51.2	51.8	53.3	55.2	56.2	52.4	50.7	50.1	50.1	47.5	48.6	46.7	49.6	48.8
	(全国)	46.3	48.3	50.5	50.7	49.4	48.8	47.9	48.5	49.1	50.0	49.9	50.0	51.1	52.0	54.1	53.9	49.9	48.6	48.9	49.0	47.1	48.1	46.6	48.7	48.6
先行き判断	近畿	49.6	48.6	50.4	49.9	49.8	50.3	49.0	49.7	51.2	51.6	49.7	50.6	49.6	55.6	51.7	49.9	53.4	51.0	52.3	52.1	50.8	52.4	50.8	51.2	52.9
	(全国)	49.4	49.9	50.8	50.4	49.2	50.2	48.5	49.5	50.0	50.5	50.5	51.2	51.1	54.5	53.4	52.7	52.4	51.4	49.6	50.1	49.2	50.0	49.0	51.4	51.3

※季節調整値